

## 「行革甲子園 2018」エントリーシート

### 【取組の内容】

#### 1 取組事例名

頑張る地域（行政区）を応援！ふるさと納税クラウドファンディング

#### 2 取組期間

平成 27 年度～（継続中）

#### 3 取組概要

各地域（行政区）が「地域づくりのため」に実施したい取り組みを計画し、ふるさと納税の制度を用いて全国に寄付を募り、その取り組みに対して集まった寄附金を全額補助金として交付することで、地域づくりのための事業を支援する。

#### 4 背景・目的

各自治体の返礼品の充実化により、平成 25 年度ころからふるさと納税が注目され始めていたが、本市は返礼品の充実ではなく寄附されたお金の使い道を充実させようという事で、地域を対象としたクラウドファンディングのアイデアを思いつき平成 27 年度から実施した。

## 5 取組の具体的内容



平成 27 年度からこれまでに 5 件の事業が実施され、計 4,865 千円のふるさと納税が納められた。

[本制度を活用した事業例 (名護市久志支部区長会) ]

### ①Enmusubi in Kanucha Resort

少子高齢化・過疎化が進む名護市久志地域で、結婚を望む者の出会いを創出するため、概ね 20～40 代の未婚の男女を対象にした婚活イベントを地域内にあるリゾートホテルで開催した。80 人ほどの参加希望があり、当日は病欠で 1 人不参加となり 59 人で実施した。久志地域 (在住、勤務) の参加者が約半分の 27 人、県外からも 6 人が参加した。30 組中 9 組がカップル成立となり、そのうち、久志地域関係者が 8 人となった。参加者からは、次回開催を希望する声が多く、本年度もクラウドファンディングを行って同規模のイベントを実施の予定。



### ②やんばる嘉例 (カレー) 祭

東村、大宜味村、国頭村を含むエリアが国立自然公園に認定され、久志地域は観光需要の増加が期待されるエリアの玄関口にあたる。これを機に、地元の直売所が中心となって、飲食店、ホテル、生産者を巻き込み、食を活かしたツーリズムに取り組みはじめた。久志地域は、ウコンをはじめ、島ニンニク、島とうがらし、カボチャ、あぐー豚及びさとうきびなどカレーに適した食材の宝庫であるため、地域全体でやんばるの食と言えばカレーというブランドをつくり、北部観光の導線を新たにつくることを目的としている。また、観光需要だけではなく、カレーという国民的に愛されるメニューをブランドすることによって、地域内での安定的な需要も期待でき、地産地消を促進させることになる。亜熱帯の気候を活かし、スパイスの生産にも取り組み、国内でもほとんど例がない 100% やんばる産のカレー商品化も検討している。その機運を高めるイベントとして第一回やんばる嘉例 (カレー) 祭を開催し、8 店舗が出店し 5 店舗が完売した。1,500 人を超える来場者で約 2,100 食の売り上げがあった。



### ③ (第6回) フラワーフェスティバル 2018

久志地域19軒の民家が自慢のお庭を開放し見学できるオープンガーデンと地域の資源を活かした25のイベントを実施した。年々知名度が高まっているのもあり、オープンガーデンには約3000人が訪問し、花を通して県内各所の団体などとも交流が生まれた。相乗効果として久志地域に立地する地域交流施設(農産物直販所)の売り上げも前年度同時期と比べ119%増、集客数も約1000人増となった。H30年度は、県内旅行社によるバスツアーが開催される予定。



## 6 特徴(独自性・新規性・工夫した点)

ふるさと納税を増やすために、返礼品の充実ではなく寄附されたお金の使い道を充実させようとしたこと。区の単位、または複数区での実施が可能であり、地域が金銭的な事情でできない事業を後押しができる。交付する補助金の事業経費にあえて制限を設けていないため、通常の補助金ではできない営利を伴った事業など区が真に行いたい事業を実施することができる。地域が企画し実施することから、地域力の向上にも寄与する。一般的なクラウドファンディングと違い、税控除の対象となることから、寄付者からも支援を受けやすく、また地域を限定して寄付ができることから、ふるさと納税の本来の目的である地元在住者、地域出身者、地域の関係者の支援の輪が広がり、繋がりを強化しやすくなり、提案事業に対する注目度、理解度も増す。

## 7 取組の効果・費用

平成27年度から5件の事業が実施された。取り組みに要した費用は、計4,865千円だが、すべてふるさと納税により賄われており、市の負担は実質0円。各区の単位での実施となるため、地域の企画力や事業運営能力の向上に寄与した。寄付者の負担感が少ないことから、事業を理解する地域在住者や関係者の支援が増えた。

## 8 取組を進めていく中での課題・問題点（苦労した点）

これまで5件の事業が実施されたが、目標にしていた額にはすべて達しなかった。  
区の単位で企画の立案、寄付金の公募、事業の実施をするため、負担感があり申請する件数が少ない状況にある。特に、事業の周知に関しては、市のHPのみでは目標に達することは難しいため、各区の郷友会にDMを送る、SNSでの周知など工夫が必要である。活用を広めるためには事業を実施したい地域へのさらなる支援が必要で、民間との連携などについても提起していきたい。

## 9 今後の予定・構想

今後も引き続き実施し地域力の向上に寄与したい。  
ふるさとチョイスなどのサイトを使った周知も検討している。

## 10 他団体へのアドバイス

様々な自治体が趣向を凝らし返礼品を充実していますが、差別化を図り、地域力の向上に寄与できる制度としては変わった取組だと思います。

## 11 取組について記載したホームページ

<http://www.city.nago.okinawa.jp/9/8982.html>